



令和7年12月24日
小田原市立東富水幼稚園
文責 宮川 晃

2学期の東富水幼稚園は、年少児（ひよこ組）は5名増えた18名、年長児（すみれ組）14名の計32名の幼児と11名の教職員が力を合わせ、充実した日々を送ることができました。そして、教育目標や重点課題達成に向け、教職員一同、力を合わせて取り組みました。

令和7年度の教育目標

『認め合い育ち合う子どもの育成』

- ★自ら関わることを楽しめる子
- ★粘り強く頑張れる子
- ★自分も友達も大切にできる子

研究主題 『幼児の主体性を育むための教師の資質向上』
サブテーマ ～ 幼児が主役の保育について考える ～



重点課題と指導の方針①

『子どもの発達や特性に応じた教育活動』

- 人・もの・ことなど、身の回りの環境に積極的に関わり経験を重ねる活動内容の実践
- 興味関心をもち、試行錯誤しながら学びに向かう芽を培う環境の工夫
- 遊びを通じた、体力・運動能力の向上
- 様々な環境に触れ、五感を通して心の豊かさを育む環境の工夫
- 地球環境や自然環境を活かし、取り入れた遊びの展開
- 栽培、飼育活動を通じた命の学び
- 基本的生活習慣、衛生習慣の確立
- 安全教育の推進（防災・防犯・交通安全・感染予防等）



子どもたちとの約束に「3つのあ」があります。「あ」で始まる「あいさつ」「あんぜん」「ありがとう」を大切にしましょうという約束です。「あいさつ」は小田原市の教育指導の重点として掲げる「社会力の育成」を図る上でも重要な要素と考えています。11月のあいさつ運動の中でも、あいさつしようとする気持ちを育てることができました。また、「あんぜん」については、2学期も子どもたちの安全を最優先にした様々な訓練に取り組みしました。3つ目の「ありがとう」は、感謝の気持ちをもって過ごせるようにしましょうという約束です。日本新薬の方々への絵本の寄贈やドングリ拾いのお礼など、子どもたちは感謝の気持ちを表す様々な機会を経験することができています。



幼児期は、遊びを中心にして主体的に人やものなどに関わりながら、総合的にいろいろなことを学ぶ時期です。今学期のひよこ組では、恐竜や魔法使いに変身したり、ピザ屋さんになったり、電車ごっこをしたりして楽しんでいました。すみれ組では、昆虫が大好きで、捕った虫を飼育したり好きな虫を製作したりして楽しんでいました。ケーキ屋さんごっこや鬼滅の刃ごっこが大好きな子もいれば、消防士や救急隊員に変身する子もいました。そして、子どもたちが考えた遊びが、スポーツフェスティバルや生活発表会の種目や内容へとつながっていきました。



10月21日に実施したスポーツフェスティバルは、日頃から子どもたちが楽しんでいることや興味をもっているテーマを運動遊びに取り入れ、体を動かす楽しさや友だちと力を合わせる喜びを味わうことができるように競技内容を工夫しました。また、11月・12月の生活発表会は、子どもたちがどんな遊びに夢中になって取り組んできたかをストーリー仕立てのお話の中に取り入れて発表しました。どちらもたくさんの保護者の方々にご参観いただき、子どもたちはとても張り切って取り組むことができました。



9月30日に稲刈りを行いました。いつもお世話になっている細谷さんにお手伝いいただきながら、子どもたちは一株ずつ丁寧に刈り取りました。刈り取った稲は束ねて縛り、竹で組んだ干し場にかけてました。その後、脱穀は農家の方をお願いしたところ、3キログラムの玄米になって戻ってきました。みんなでおにぎりやダイコンの味噌汁を作って、おいしくいただきました。



小学生や中学生との交流も盛んに行われました。泉中学校の3年生が、ひよこ組とすみれ組全員を招待し、魚釣りや的あて、モグラたたき等、様々なゲームコーナーを作ってくれさせてくれました。子どもたちは中学生とふれあいながら、とても楽しく遊ぶことができました。また、東富水小学校の5年生がすみれ組の子どもたちを小学校へ招待し、運動場で鬼ごっこをするなど一緒に遊ぶ機会を作ってくれました。来年4月に入学するのがより楽しみになりました。

中学生との交流も小学生との交流も、子どもたちにとってとても貴重な経験となりました。

重点課題と指導の方針②

『保護者・地域との連携』

- 幼児の成長をもとに喜び協力し合える信頼関係の構築
- 幼児理解・幼稚園理解と家庭教育の推進
 - ・情報発信、教育相談の充実
 - ・家庭とつながる活動の展開
 - ・楽しみながら参加できるPTA 活動の工夫
- 幼児の学びをつなげる小学校との連携
- 保護者支援・子育て支援の充実
- 地域環境・専門機関との連携や活用
- スクールボランティアの活用



今学期も、図書の読み聞かせや清掃活動、図書整理など、様々なボランティア活動を行っていたき、子どもたちを楽しませてくださったり、気持ちよく生活できるよう環境を整えてくださったりしました。また、PTA 役員会や学級懇談会等の会合にも積極的にご参加いただき、子どもたちの生活について情報共有を深め、同じ方向で支援や指導ができるように話し合うことができました。

12月には親子餅つき会を開き、親子で餅つきをしたり、鏡餅を作ったりしながら、日本の文化に親しむことができました。ご協力いただきありがとうございました。

重点課題と指導の方針③

『教職員の資質・能力の向上』

- 一人一人の発達や特性を捉えたきめ細やかな援助
 - ・教育課程、指導計画、アプローチカリキュラム、支援計画等、実態に応じた見直しと立案
- 幼児の思いに寄り添うインクルーシブ教育の推進
- ICTの活用や事務分掌の精査による効率的な仕事の推進
- チーム保育の実践
- 園内研究並びに自己課題に対する研究の推進、自己研鑽による保育スキルの向上



今学期もチーム会議の充実を図り、子どもたち一人一人について理解を深め、適切な援助ができるようチーム保育の実践を推進しました。また、小田原短期大学の野津直樹教授に継続的にご指導いただくと共に、来年1月27日には「公開保育研究会」を開催し、たくさんの幼稚園や保育園の先生方と一緒に「幼児が主役の保育」について一緒に学び合い、研究を深めていく予定です。

今後も、「教職員の資質・能力の向上」をめざして研究を深め、より専門的な知識や技能を身に付けて子どもたちに対応することができるよう、教職員の研修・研究の機会を設定しています。

「好き」「得意」が生み出す協働的な学び

玉川大学の大豆生田啓友教授は、『一人の子の「好き」「得意」が保育者により生かされることで、それがその子の成長だけでなく、クラス全体の科学的な学びを生み出していることが分かります。』と新聞コラムの中で伝えています。

例として、カエルに興味関心の高い子が、その卵を手に入れた時から夢中で観察し、周りの子どもたちにも影響を与え、みんなでオタマジャクシの誕生を大興奮して見届けます。その後も専門家の方にお話を聞いたり、保護者の力でビオトープを作っていたいたり、一人の「好き」「得意」な気持ちがどんどん膨らみ、大きくなっていく様子が挙げられます。

東富水幼稚園では、これからも、子どもたち一人一人の「好き」「得意」を大切に見取り、支援を工夫しながら、その子の成長だけでなく、クラス全体の科学的な好奇心など協働的な学びを生み出すことができるようにしていきたいと考えています。

安全で楽しい冬休みにするために…

- 1 身に付けた生活習慣を大切にして、冬休みを過ごしましょう。
- 2 家族の一員として手伝いをしましょう。
- 3 知らない人にはついていけないようにしましょう。
- 4 交通ルールを守りましょう。
- 5 日本の伝統に触れる機会をもちましょう。
- 6 手洗い、うがいをして感染症予防をしましょう。

